

特集：動物園の野生動物保護

Mission 傷病鳥獣を救護～野生復帰させる！

よく知られているように動物園では、事故や病気で衰弱した野生動物の救護を行っています。長野県林務部（鳥獣対策・ジビエ振興室）の2015年度統計によると、公営動物園での救護実績は表のとおりで、獣類8件、鳥類44件でした。その年の長野県内における全救護数は172件でしたので、約3割を動物園が担ったことになります。

しかし、動物園に收容されても、放鳥・放獣により野生に戻ることはできたのはわずか12件（23%）でした。一命は取りとめたものの障がいが残って野生復帰が困難な動物たちは、引き続き動物園で飼育されています。例えば、2014年度以前に救護された鳥獣のうち、野生復帰が困難な、ツキノワグマ2頭、ニホンカモシカ3頭、フクロウ7羽、トビ14羽などが、動物園で飼育されています。動物園に行きましたら、公営動物園における2015年度傷病鳥獣救護の状況（長野県林務部調べ）

動物園名	鳥獣名	数	收容後の経過			
			野生復帰	死亡	飼養中	
長野市 茶臼山・城山 動物園	ニホンアナグマ	1			1	
	タヌキ	1		1		
	フクロウ	2		2		
	カッコウ	1	1			
	ツミ	1			1	
	チョウゲンボウ	1			1	
	モズ	1	1			
小計		8	2	3	3	
須坂市動物園	タヌキ	2			2	
	アオバト	1		1		
	フクロウ	1			1	
	ハヤブサ(希少種)	1			1	
	トビ	1	1			
小計		6	1	1	4	
小諸市動物園	トビ	1		1		
	カナダガン(特定外来)	1			1	
	チョウゲンボウ	2		1	1	
	フクロウ	1		1		
	ヨノハズク	1		1		
	シギ	1		1		
	アオバト	1		1		
	ノスリ	1			1	
	小計		9	0	6	3
飯田市立 動物園	ムササビ	1		1		
	オオミズナギドリ	1	1			
小計		2	1	1	0	
松本市 アルプス公園	ニホンジカ	1		1		
	ヤマネ	1		1		
	ムササビ	1			1	
	ムクドリ	3		3		
	ヨチドリ	1		1		
	ツバメ	4	1	3		
	モズ	1		1		
	カルガモ	1		1		
	カワラヒラ	2	1	1		
	キジバト	3	2		1	
	ドバト	2	2			
	オオタカ(希少種)	2		1	1	
	アオバト	1	1			
	メボソムシクイ(?)	1		1		
	ノスリ	1	1			
	ヒヨドリ	2		2		
	小計		27	8	16	3
合計	内訳		52	12	27	13
			8	0	4	4
			44	12	23	9



右前脚を複雑骨折して保護されたカモシカのユリ（須坂市）

是非このような動物たちを探していただきたいと思えます。

一方、この救護件数を見て、意外に少ないのでは？と思われた読者もいるかもしれません。実際、この数年の救護件数の推移を見ますと、2010年の457件から、306件、349件、275件、192件と少しずつ減少しているようです。その背景には、「(巣立ち) ひな



保護されたホンデン（小諸市）

を拾わないで!!」、「餌付けはやめよう!」等の呼びかけに代表されるように、人間がむやみに野生動物の生活に介入しない、そのような考え方が社会に定着してきたことのほか、近年では高病原性鳥インフルエンザや様々

なウイルス、寄生虫などが施設内に持ち込まれるリスクを避けるために、成育履歴のわからない野生個体の受け入れに慎重にならざるを得ない事情もあるようです。「園内に持ち込まずに検疫できる建物や設備があれば、もっと傷病鳥獣救護業務に寄与できると思うのですが」、各園の飼育員や獣医師からたびたび聞かれた切実な要望でした。



傷病鳥獣として保護されたノゴマ（松本市）